

～先生にインタビュー～

鈴木 利佳 先生

Q1 先生のお気に入りの本を教えてください。

『14歳からの哲学』 著 池田 晶子

Q2 その本を選んだ理由は何ですか。

「悩むのではなく考える」これが私のコンプレックスから抜け出すきっかけとなった言葉です。自分1人で考えるのではなく、多くの本や体験から学び、考えて知る。「自分とは誰か」、「心はどこにあるのか」、「規則とはどうしてあるのか」「なぜ人は悪いことは悪いことだと知っているのか」等々・・・。

悲観的になったり、大人や親に八つ当たりしたり、人のせいにして逃げたりせずに、自分で考えて行動する。すぐに答えは見つからないかもしれませんが、しかし、「知りたい」という気持ちがあれば、動き出すことが出来ます。その中で自分と同じ悩みを持つ先輩や先人に必ず出会います。特にこの本は、思春期の中学生や高校生に是非読んでほしい一冊として推薦してきました。皆さんにも是非読んでほしいと思い選びました。

Q3 日立北の生徒に一言お願いします。

人生は理系・文系の選択で決まりません。定期考査や共通テストの他にも大事なことや興味を持つことはたくさんあります。高校生だからこそ、様々なことに興味関心を持ち、その中から一生をかけて学びたい、知りたいことが見つけれたらいいですね。失敗から学ぶことも大きいです。今の自分が知りたいことや、自分に必要なことを考えて行動してください。自分で選んだのだから失敗しても納得がいきますよ。応援しています。



～図書委員 雑誌紹介～

担当 磯貝桜夜・齋藤安希

今回、私たちが紹介する雑誌は、

「月刊 Newton 6月号 特集：ゼロからわかる数学教養教室指数対数編」です。

Newton は、ニュートンプレスから刊行されている科学雑誌です。

6月号では、灼熱の物理学、最後の閃光―超新星爆発、「第6の指」がひらく身体拡張の未来などがきれいなイラスト付きで紹介されています。その中で、おすすめの記事は、「嫌悪の心理学」です

～「嫌悪」の心理学～

嫌悪には危険を回避する警報としての機能があります。嫌悪が強すぎたり社会的に不適切だったりすると周囲との摩擦を引き起こし、深刻なケースにおいては精神疾患に該当することもあります。「嫌悪」に関する精神疾患には、ある考えが頭から離れず特定の行動をしてしまう「強迫性障害」、自分の外見や体系が醜いと感じ、強い自己嫌悪に陥る「身体醜形障害」、自分の体臭や口臭などが異常に臭いと感じ強い自己嫌悪に陥る「自己臭恐怖症」、精神的な理由でものを食べられなくなったり食べすぎたりする「摂食障害」があります。



図書室前のスペースに毎月新しい雑誌が入ります。

「アニメージュ」「ポップティーン」「明星」「オレンジページ」…アニメや料理、科学、文学などに興味がある人は必ず楽しめる雑誌がたくさん置いてあります。

新聞もあり小論文の対策に有効です。英字新聞や受験に関する雑誌もあります。

雑誌を持ち出すことはできませんが

昼休みや放課後にぜひ読みに来てください！